

高等部 第1学年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時 ○月○日 (○) 2校時
 場 所 高等部1-1教室
 指導者 T1○○ ○○ T2○○ ○○
 T3○○ ○○

1 単元名 秋田を知ろう～秋田の祭り～

2 単元の目標

- (1) 自分たちの住んでいる秋田に興味をもち、秋田の祭りや食文化などに理解を深める。**知・技**
 (2) 調べる、まとめる、発表(紹介)するという経験を通して、分かり易く伝えるためのいろいろな方法を学ぶ。**思・判・表**
 (3) 実際に見る、触れる、体験するなどの活動を通して、生活経験の拡大を図り、いろいろなことに挑戦する気持ちをもつ。**主**

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学級は男子3名、女子3名の計6名からなる知的代替の各教科等を学習するグループである。5名は昨年からのクラスメイトで、1名は類型変更により今年度より在籍している。コミュニケーション面に関しては、5名が言葉でのやり取りができ、1名が言語は不明瞭なものの、簡単な単語を話したり、身振り手振りで意思を伝えたりする。ただ、生活経験の乏しさから、全員が慣れた人や場面では自己表現できても、初対面の人と積極的に関われなかったり、失敗を恐れて発言できなかったりする面がある。しかし、様々な経験を通して、少しずつ自己表現できるようになってきており、それが学習面でもいろいろなことに興味をもって意欲的に活動する様子に現れてきている。

(2) 単元について

「秋田を知ろう」は、自分たちの住んでいる秋田に着目するため、生徒たちには身近で、親しみやすく、なじみのある事柄を含んだ単元と考える。昨年度は秋田の祭りや伝統について学習しているため、今年度はさらに秋田のことを自分たちで調べ、まとめていきたいと考えた。本単元は、秋田の祭りに限らず、食文化などへの展開もしやすい。また、来年度は修学旅行へ行くために、秋田県と他県との比較という点でも展開していくことができると考える。秋田のいろいろな調べ学習を通して、パソコンを使っていろいろなことが調べられること、簡潔なまとめ方を覚えること、文字や言葉を含め、相手に分かり易く伝えたり、表現したりする方法を学習できると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

単元全体を通して

- ・単元に見通しがもてるように、調べる、まとめる、発表するというサイクルの学習で展開する。
- ・一人で考えたり選択したりできるように、生徒の実態に応じて、質問や助言などの手掛かりとなる要素を提示するタイミングに気を付ける。
- ・生徒たち自身で考えて進めていけるように、教師の支援を少なくしていき、生徒同士で意見交換する場を作る。
- ・自発的に活動できるように、生徒からの「分からない」「できない」などの発信を待ち、何が分からないのか、どうしてほしいのかを自分で考え、伝える場面を大切にする。また、分からないことが伝えられたことを賞賛する。
- ・生徒の意見が発展するように、生徒の意見を尊重しつつ、良い意見が出たときは全体で取り上げるようにする。

自立活動の指導について

- ・個々の生徒の実態に即して自立活動シートを作成し、本時の目標を達成するために、指導内容を適切に関連付けている。

4 指導計画（総時数 55 時間）

小単元（題材）名・学習内容	時数	観点	小単元（小題材）の目標
秋田の祭りって	1	主	・知っている祭りを互いに発表し合う。
秋田の祭りを調べよう ～インターネットを活用～	20	主 知・技 思判表	・秋田の祭りの名称を調べよう ・自分が調べたい祭りを選び、「みんなが分かる言葉を使って」、祭りの内容をまとめる。
お互いに発表しよう	4	思判表 主	・自分が調べた祭りについて、簡潔にまとめ、分かりやすく伝える。
実際に見てみよう・体感しよう 1 ～花輪囃子、竿灯祭り～	4	思判表 主	・「花輪囃子」の実際の笛や鉦の音を聴いたり、「竿灯祭り」で使うはっぴや雪駄などを身に付けてみたりする。
実際に見てみよう・体感しよう 2 ～ねぶり流し館、みなと歴史伝承館～	4	思判表 主	・実物の重さや大きさ、迫力を体感し、その気持ちや感じたことを自由に表現する。
祭りの紹介動画を作ろう ～竿灯祭り～ ～土崎みなと祭り～ ～その他の祭り～	20 本時 (8/20)	主 知・技 思判表	・「みんなが分かる、見てみたい、興味をもってくれる」を合い言葉に、友達と意見交換しながら、紹介動画協力して作る。
上映しよう	2	思判表 主	・自分たちの作った祭りの紹介動画を上映し、見た人からいろいろな意見をもらう。

5 本単元と各教科等との関連

各教科等	関連する指導内容
情 報	・文字入力、インターネットでの検索方法、文字や写真の印刷方法など
国 語	・文章の読解力、簡潔なまとめ方（箇条書き含め）、伝え方（発表の仕方） 電話のかけ方、祭りの掛け声など
数 学	・数量（重さ、高さなど）、金銭
音 楽	・秋田音頭や各祭りで使用する楽器や音楽など
生 活	・日本地図の活用、秋田県の位置や秋田市の位置など
自立活動	・自分から発信、友達の気持ちを受信、コミュニケーション

6 本時の計画（総時数 55 時中の 8 時）

（1）本時の目標

- ・自分のせりふや役割が分かり、友達同士で声を掛け合いながら、竿灯祭りの紹介動画を完成させる。**思・判・表**、**主**

（2）個別の実態・目標・手立て

生徒名	本単元における実態	本時の目標	手立て MSゴシック：自立活動シートより
A (男)	・祭りの調べ学習で、主に写真を使って祭りの名称を覚え、友達が調べている祭りの写真の準備を意欲的に行っている。	・せりふや動きが分かり、みんなと一緒に動く。	・「何をやるの」「どんな風にやるの」と質問し、動きやせりふなどを事前に確認する。 間違っている場合は正しいせりふや動きを伝える。 【コ(2)】
B (女)	・自分が知っている祭りを積極的に発言している。 ・検索した文面を写しがちであったが、分かりやすい表現でまとめるようになってきている。	・撮影前に順番を伝えたり撮影中も友達に動きを伝えたりしながら、みんなをリードして動画を撮影する。	・作ったシナリオを見ながら進めることを事前に伝える。 ・困ったときは友達に相談することを伝える。 【人(2)、コ(5)】
C (男)	・教師が読む祭りの説明文から必要な内容を的確に抜粋しながら、まとめることができている。発表の際も、必要な要素を選択できている。	・動画を見返して、分かり易くするために、直した方が良いと思う部分を発表する。	・動画を場面毎に区切って一緒に確認し、分かりにくい部分がないか質問したり、分かり易くする方法を問いかけたりする。 【コ(2)、(5)】

D (女)	分らない漢字や言葉を自分から教師に聞きながら活動している。一人でまとめるのは難しいが、選択肢から選んだりワークシートを活用したりしながらまとめをしている。	自分のせりふや出番が分かり、大きな声で話したり、スムーズにパフォーマンスしたりする。	自信をもってパフォーマンスできるように、動画撮影前に、せりふや流れを繰り返し練習する。【人(4)、コ(5)】
E (男)	教師の助言を必要とする場面が多いが、教師が読む祭りの説明文から、ワークシートを参考に、分かりやすくまとめるようになってきている。	自分の出番が分かり、分らないことを友達に相談しながら活動する。	- 自信をもって活動できるように、事前に話す場面やせりふを質問し、一緒に確認する。 - 困ったときには友達に質問することを伝える。【コ(2)、(5)】
F (女)	自分なりに祭りを調べ、その内容や言葉の意味が難しければ、自分で調べたり教師や友達に聞いたりしながら、簡潔にまとめている。	グループ全体の流れを把握し、友達に声を掛けながら、みんなをリードして動画を撮影する。	友達をリードして進められるように、次は誰が何をするか伝えながら進めることを事前に確認する。【人(4)、コ(5)】

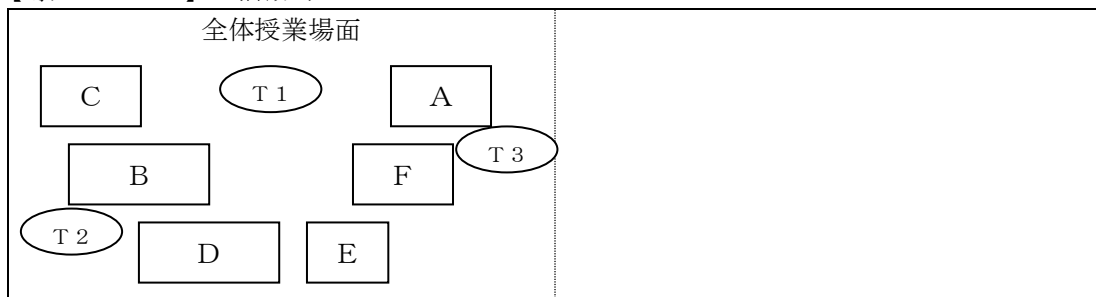
(3) 学習過程

時間 (分)	学 習 活 動	導上の留意点 MSゴシック：自立活動シートより	準備物
9:56 (5)	1 本時の学習内容とめあてを知る。	- 自分たちで考えた動画作成時のポイントを質問し、黒板にカードを張って確認する。 - 本時のめあてを伝え、「せりふや役割が分かって活動する」「友達同士で声を掛け合う」ことを目標に動画を完成させることを伝える。 - 時間内に完成させるためには、お互いに協力しなくてはならないことを伝える。	フラッシュカード
	・自分のせりふや役割が分かり、友達同士で声を掛け合いながら、竿灯祭りの紹介動画を完成させる		
10:01 (33)	2 グループに分かれて、友達と声を掛け合いながら、紹介動画完成させる。 Aグループ (A、E、F) T3 Bグループ (B、C、D) T2	- 動画作成に必要なものや教師の協力が必要な場面があれば、遠慮なく教師に依頼することを事前に伝える。 - 各グループの動画制作が盛り上がるように、T1は別グループの進行具合や様子を伝えながら各グループを回る。 - T2、T3は時間内に出来上がるように、残り時間を伝えたり、完成のために前回挙げられたポイントを伝えたりする。 Aグループ 【A】がミニ竿灯を使うことが分かるように、「何を準備するの」と声を掛ける。 - T1は【A】と一緒に、動画で使用するミニ竿灯に提灯を付ける。 【E】が安心して活動できるように、せりふの最初の言葉を伝え、話すきっかけをつくる。 【F】がリーダーとして責任をもって活動できるように、友達が困ったときには優しく言葉を掛けることを伝え、若干距離をとって見守るようにする。 Bグループ 【B】がみんなをリードしながら進めていけるように、「迷ったときは友達に聞くといい」ことを事前に伝えておく。それでも不安なときは	タブレット 端末 テレビ2 半纏 帯 豆絞り 雪駄 半だこ 足袋 提灯 ミニ竿灯

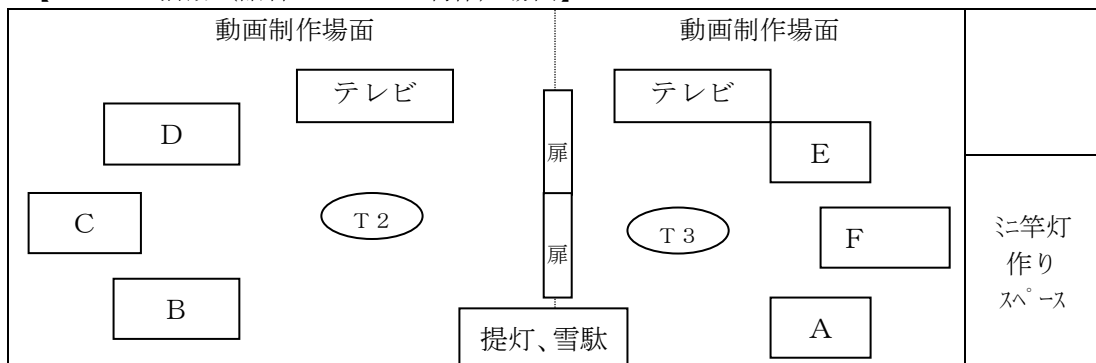
		先生に聞くことを伝える。 ・【C】が友達に意見を伝えながら動画制作できるように、「どこを直したらよいか」「分かりにくいところはないかな」と質問する。 ・【D】が動きやせりふに自信をもって活動できるように、撮影前に、せりふや動きを質問して一緒に確認する。それが合っていた場合は称賛し、間違っていた場合は正しいせりふや動きを伝える。 ・T2・T3は、みんなで協力して撮影できるように、生徒ができそうなことを伝えたり、協力したらよい場面には「みんなでやってみたら」と言葉を掛けたりする。	
10:29 (15)	3 お互いの紹介動画を見合い、今日の活動を振り返る。	・他グループの完成動画を見た後に、見た動画の良かった点について感想を聞く。 ・本時の目標を振り返ることができるように、各グループから自分たちのグループの活動について質問する。 ・お互いの発言と協力がなければ動画が完成しなかったことを伝え、出来上がったことを称賛する。また、お互いの頑張りに拍手をし合う。 ・次の動画作成時も、今回同様協力し合うことを伝える。	

(4) 配置図

【導入・まとめ】の活動時



【グループ活動（話し合い・DVD制作）場面】



(5) 評価の観点

＜児童（生徒）＞＊個別の目標を基に評価する。

＜教師＞・自分の役割が分かって活動するための、手立てや言葉掛けはできたか。

・みんなで声を掛け合って活動するための助言やきっかけ作りは適切であったか。